

保健だより

2017年5月1日（月）発行

ゴールデンウィークはどこかお出かけですか。

海外旅行から帰ってきて、何らかの体調不良を訴える方は、全旅行者の数十パーセントに及ぶと言われています。中でも下痢、皮膚の異常、咳、そして発熱が多くみられます。自然に回復することも多いのですが、治療が必要な場合があります。早めに医療機関を受診しましょう。

〒252-0326 相模原市
南区新戸5195-4
サンガこども園
電話046-255-0148

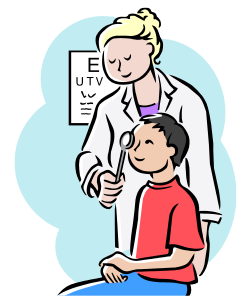


子どもの近視について

子どもの時に乱視や遠視などの視力障害があると、目や脳の能力がきちんと育たなくなってしまう危険性があります。又、心の問題で引き起こされる「心身症」の一症状として、視力障害が現れることもあります。心身のすこやかな発達のためにも、お子さんの目の状態について普段から十分に気を配っておきましょう。

近視には、遺伝的な原因もあるといわれますが、もちろんそれだけではありません。近くでものを見すぎない、ゲームなどで目を酷使しすぎないといった基本的なことをきちんと守ることが重要です。

もしお子さんの目に近視を疑うようでしたら、眼科で正確な目の検査をしたうえで、顔の大きさなど成長にあったメガネを選びましょう。



アレルギーとは・・・

私たちの体には、体外から侵入してくる細菌やウイルスなど異物とたたかう免疫システムがあります。もともとは体を守るための仕組みですが、なぜか、この免疫システムが本来、有害でないものまで過剰に反応し、さまざまな症状を引き起こすのがアレルギーです。食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、花粉症、アトピー性ぜんそく等は、すべてアレルギーの病気です。

乳幼児の食物アレルギーは、消化機能が未熟なために起こる場合が多いと言われています。成長とともにおよそ9割が自然になおると言われています。あせらず気長に対処することが大事です。

お医者さんから出された薬について

お医者さんから出された薬はお子さんの症状を診断し、治療の一環として用いられるものであり、一人ひとりの病気やけがに適合する薬です。ですからあまったからといって次回に飲んだり、他人に良くきくといってわけてあげたりしてはいけません。もったいないようですが、思い切ってすてましょう。



子どもを車内に放置することは犯罪です

～炎天下の車内はサウナと同じです～

炎天下に、車を30分放置すると、車内の温度は60度以上に達します。60度と言えば低温サウナとほぼ同じ温度です。気温のそれほど高くない日でも、直射日光が当たると2時間ほどで60度に達すると言われています。

また、乳児や、成人でも体力が低下しているときなどは、車内が30度程度でも短時間で脱水症状を起こしたり、熱中症になることもあります。子どもを車内に放置することは、非常に危険なことです。

